

STA-Rを使用したDダイマー測定試薬の基礎的検討

ナノピアDダイマー（第一化学）を使用しての検討

塚本 美和子, 古賀 千尋, 泉 浩実, 西川 陽子, 物部 真子
(財)大阪府警察協会 大阪警察病院 臨床検査科, 黒川 和男, 辻本 正彦
(財)大阪府警察協会 大阪警察病院 病理技術科)

【目的】Dダイマーは安定化フィブリンがプラスミンによって分解されたFDPの種でありDICや各種血栓性疾患における二次線溶亢進状態の把握に重要な指標として用いられている。今回、我々はナノピアDダイマー（第一化学）の基礎的検討を行う機会を得たのでここに報告する。

【方法】測定原理：検体中のDダイマーと試薬中の抗ヒトDダイマーマウスモノクローナル抗体感作ラテックスと抗原抗体反応を起し凝集して濁度が増加する。この変化率から濃度を求める（ラテックス凝集法）測定試薬：ナノピアDダイマー（第一化学薬品）、STAライアテストDダイマー（ロシュダイアグノスティック社）使用機器：全自動血液凝固分析装置STA-R（ロシュダイアグノスティック社）

【結果】同時再現性：(n=10)3濃度のCVは、高濃度1.1%、低濃度7.5% 日差変動：(7日間)2濃度のCVは、3.3%、4.2% 希釈直線性：50 μ g/mlまでほぼ直線性を認めた 共存物質の影響：遊離型および抱合型ビリルビン、ヘモグロビン、乳び、アスコルビン酸について、検

討範囲内で影響は見られなかった 他試薬との相関：
n=30 相関係数 r= 0.91、回帰式 y(ナノピアDダイマー)
= 1.81x(STAライアテストDダイマー) +0.10との結果が
得られた

【まとめ】検討の結果、本試薬は日常検査に有用であると思われる

連絡先：06-6771-6051(内線2258)